

2010/10/13

柏の景気情報（平成22年9月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成22年9月分）

○ 調査期間 : 平成22年9月22日 ～ 9月27日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	107	67	62.6%
建設	19	15	78.9%
製造	23	15	65.2%
卸・小売	43	25	58.1%
サービス	22	12	54.5%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成22年9月の調査結果のポイント】

◀業況DIのマイナス幅さらに拡大▶

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲44.7(前月水準▲38.0)となり、マイナス幅が▲6.7ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲33.3(同▲50.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲6.6(同△21.4)であり、▲28.0ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲72.0(同▲58.6)、サービス業▲50.0(同▲42.8)である。

【建設業】からは、「利益率は良くないです」(一般土木建築工事業)、「県外などから極端に安い単価で工事を受注するところが出てきている。工事が適正に施工されているのかが心配です」(板金・金物工事業)、「9月に入ってからの動きが止まった。以前は6か月以上の受注見通しが出来ていたが、最近では3か月先も見えない」(電気工事業)などの声が寄せられた。

【製造業】からは、「販売価格が一段と下降気味。建築物の減少に寄るためと思われる」(一般産業用機械設備製造業)、「依然として景気が改善してきているという実感が持てない。関係業者からもよい声は聞こえてこない」(その他の機械・同部分品製造業)という意見が寄せられた。

【卸小売業】からは、「記録的な暑さのせいで日中に集客するのが大変だった」(各種食料品小売業)、「8月度は売上入店とも前年を上回る状況。猛暑対策が奏功」(百貨店)といった内容のコメントが上がってきた。

【サービス業】からは、宿泊は市場全体で一室単価が下がる。稼働は若干上がっているが、原価販売費が増え利益を圧迫。国体に期待」(ホテル)、「9月にはいって状況は悪くなっている」(そば・うどん店)といったコメントが寄せられた。

◎猛暑の影響

各業種から、「長雨や暑さが戻る予想などもあり、青果物は打撃を受けている状況。入荷減少のため高値で取引が行われています」(食料・飲料卸売業)、「猛暑の影響は大きいです」(菓子・パン小売業)、「連日の猛暑でガス売上激減。したがってすべてにおいて悪循環に陥っている」(燃料小売業)、「9月度は秋商戦が厳しい残暑の影響をうけて実需対応商材の動きが弱く、月初より売上高が低調な推移となった。8日には台風の影響を受け売上高はさらに落ち込みをみせた」(各種商品小売業)など、さまざまなコメントが寄せられた。

◎消費意欲減退

各業種から、「暑さや政治的不安定が影響して消費マインドがマイナスの方向に向かっていると思います」(食料・飲料卸売業)、「後半から9月頭は大幅に消費意欲の冷え込みを感じる状況。今後も予断を許さないものとする」(百貨店)、「気温の高い日が続く秋物商品は不振であった。商品が冬ものに変わりつつあるが、消費者の購買意欲は低く、期待できない」(その他の各種商品小売業)など、さまざまな声が上がってきた。

◎円高の影響

各業種から、「円高の影響で長期的にみると景気は悪くなる予想ができるので、新たな集客方法を考え、取りこぼしの無い売り場作りをしなければなりません」(各種食料品小売業)、「今後は円高による外国人客の減少の可能性高し」(ホテル)などのコメントがあった。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
4月	▲39.4	▲64.2	▲5.8	▲48.1	▲38.4
5月	▲43.0	▲33.3	▲12.5	▲62.9	▲50.0
6月	▲42.6	▲46.1	±0.0	▲65.5	▲33.3
7月	▲30.0	▲42.8	△18.7	▲51.8	▲30.7
8月	▲38.0	▲50.0	△21.4	▲58.6	▲42.8
9月	▲44.7	▲33.3	▲6.6	▲72.0	▲50.0
見通し	▲31.3	▲26.6	▲26.6	▲32.0	▲41.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成22年9月の業況についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲44.7(前月水準▲38.0)となり、マイナス幅が▲6.7ポイント拡大した。

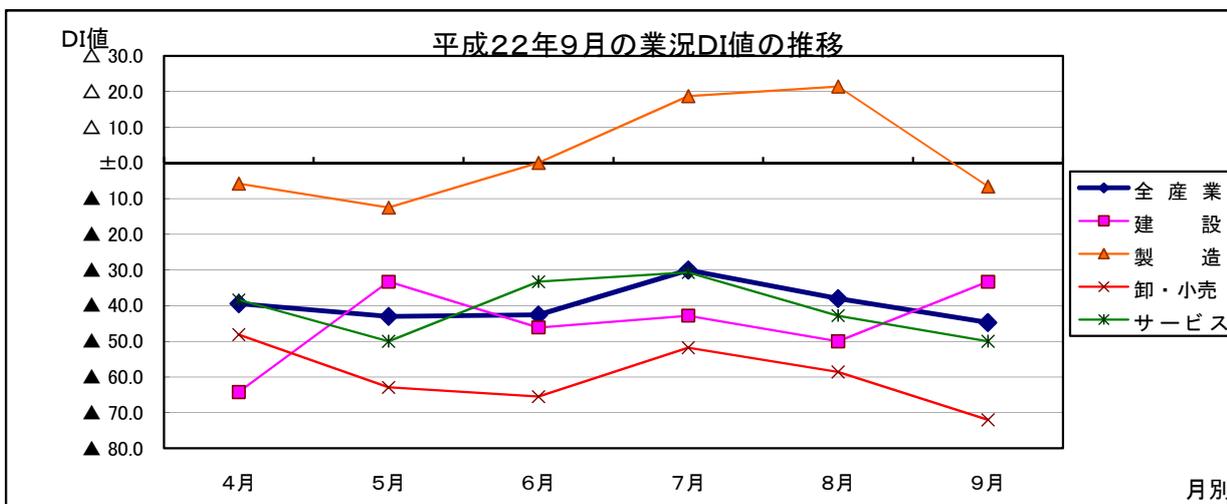
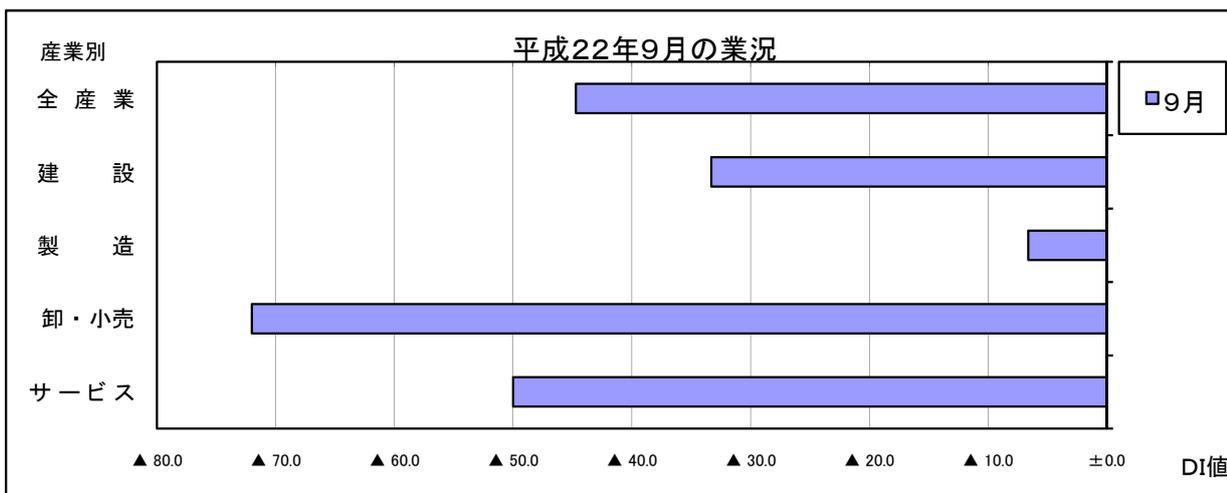
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲33.3(同▲50.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲6.6(同△21.4)であり、▲28.0ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲72.0(同▲58.6)、サービス業▲50.0(同▲42.8)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲31.3(前月水準▲17.1)となり、マイナス幅が▲14.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲26.6(同△26.6)であり、▲32.8ポイントと大幅に悪化する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲41.6(同▲23.0)、卸小売業▲32.0(同▲25.9)、建設業▲26.6(同▲21.4)である。

平成22年9月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲39.4	▲43.0	▲42.6	▲30.0	▲38.0	▲44.7	▲31.3(▲17.1)
建設	▲64.2	▲33.3	▲46.1	▲42.8	▲50.0	▲33.3	▲26.6(▲21.4)
製造	▲5.8	▲12.5	±0.0	△18.7	△21.4	▲6.6	▲26.6(△6.2)
卸・小売	▲48.1	▲62.9	▲65.5	▲51.8	▲58.6	▲72.0	▲32.0(▲25.9)
サービス	▲38.4	▲50.0	▲33.3	▲30.7	▲42.8	▲50.0	▲41.6(▲23.0)



【平成22年9月の売上についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲38.8(前月水準▲26.7)となり、マイナス幅が▲12.1ポイント拡大した。

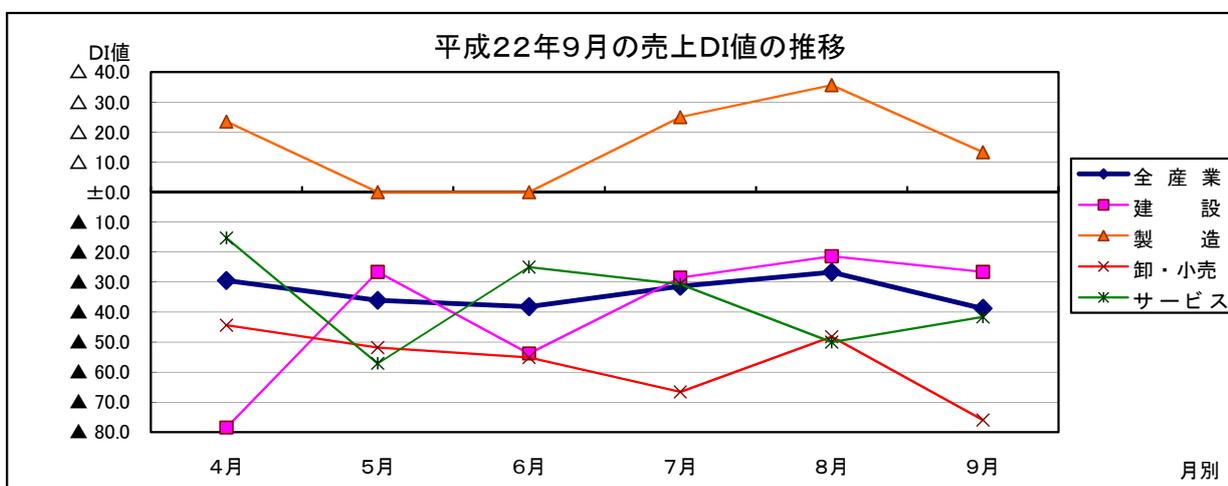
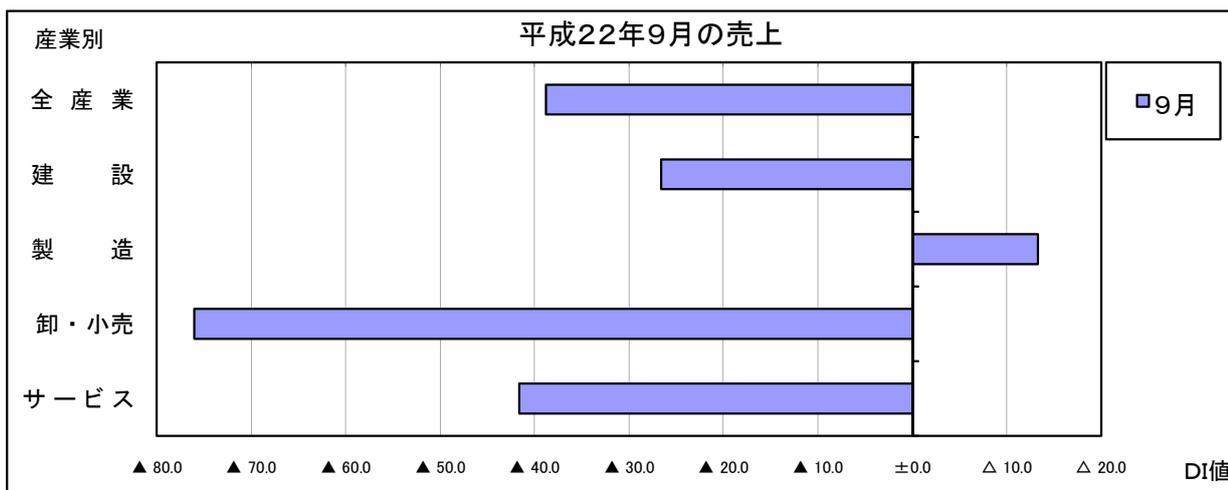
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲41.6(同▲50.0)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業△13.3(同△35.7)であり、プラス幅が▲22.4ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲76.0(同▲48.2)、建設業▲26.6(同▲21.4)であり、特に、卸小売業はマイナス幅が▲127.8ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲26.8(前月水準▲22.5)となり、マイナス幅が▲4.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲16.0(同▲27.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲26.6(同▲7.1)、サービス業▲33.3(同▲21.4)、建設業▲40.0(同▲28.5)である。

平成22年9月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲29.5	▲36.1	▲38.2	▲31.4	▲26.7	▲38.8	▲26.8(▲22.5)
建設	▲78.5	▲26.6	▲53.8	▲28.5	▲21.4	▲26.6	▲40.0(▲28.5)
製造	△23.5	±0.0	±0.0	△25.0	△35.7	△13.3	▲26.6(▲7.1)
卸・小売	▲44.4	▲51.8	▲55.1	▲66.6	▲48.2	▲76.0	▲16.0(▲27.5)
サービス	▲15.3	▲57.1	▲25.0	▲30.7	▲50.0	▲41.6	▲33.3(▲21.4)



【平成22年9月の採算についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲47.7(前月水準▲49.2)となり、マイナス幅が△1.5ポイント縮小した。

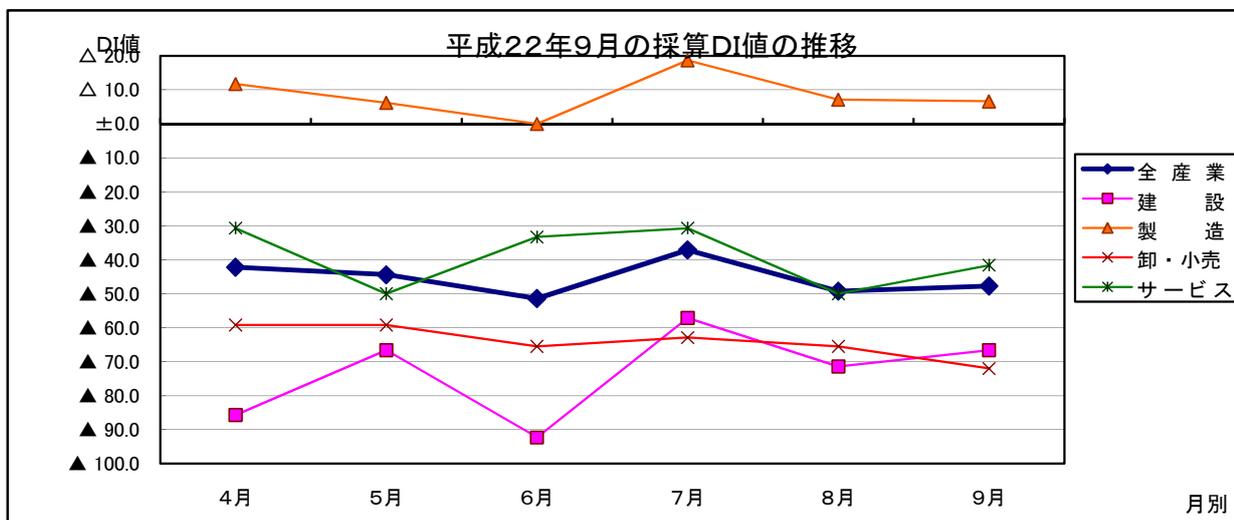
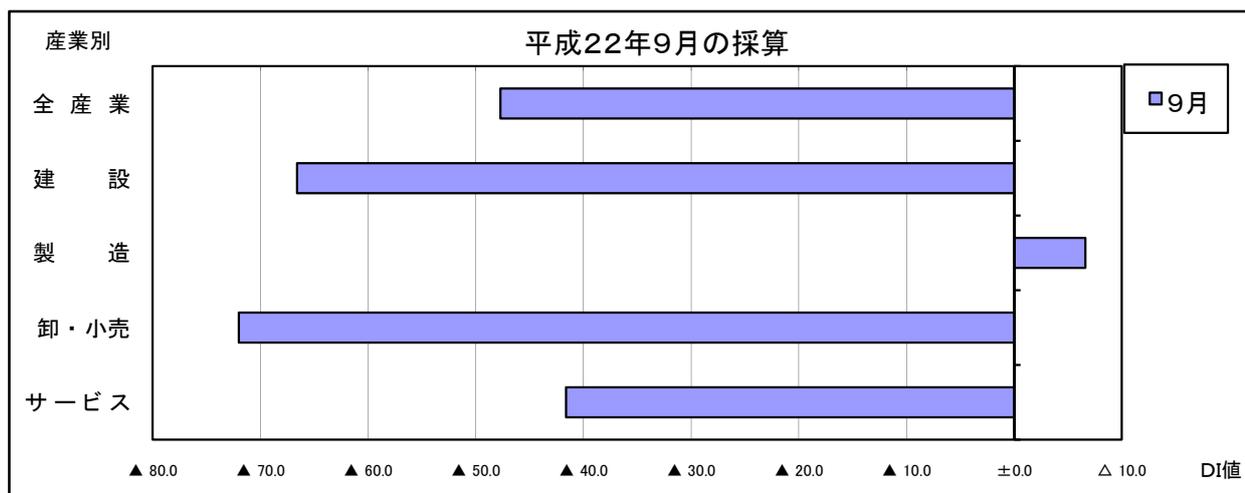
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲41.6(同▲50.0)、建設業▲66.6(同▲71.4)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業△6.6(同△7.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲72.0(同▲65.5)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲37.3(前月水準▲33.8)となり、マイナス幅が▲3.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲46.6(同▲57.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲26.6(同▲7.1)、サービス業▲33.3(同▲28.5)、卸小売業▲40.0(同▲37.9)である。

平成22年9月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲42.2	▲44.4	▲51.4	▲37.1	▲49.2	▲47.7	▲37.3(▲33.8)
建設	▲85.7	▲66.6	▲92.3	▲57.1	▲71.4	▲66.6	▲46.6(▲57.1)
製造	△11.7	△6.2	±0.0	△18.7	△7.1	△6.6	▲26.6(▲7.1)
卸・小売	▲59.2	▲59.2	▲65.5	▲62.9	▲65.5	▲72.0	▲40.0(▲37.9)
サービス	▲30.7	▲50.0	▲33.3	▲30.7	▲50.0	▲41.6	▲33.3(▲28.5)



【平成22年9月の仕入単価についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.8(前月水準▲26.7)となり、マイナス幅が△2.9ポイント縮小した。

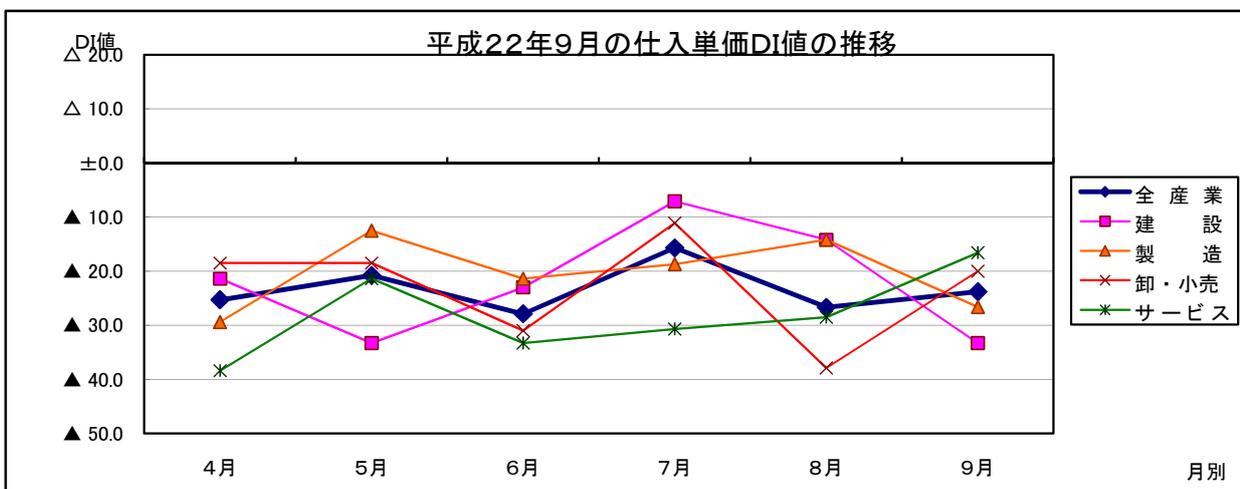
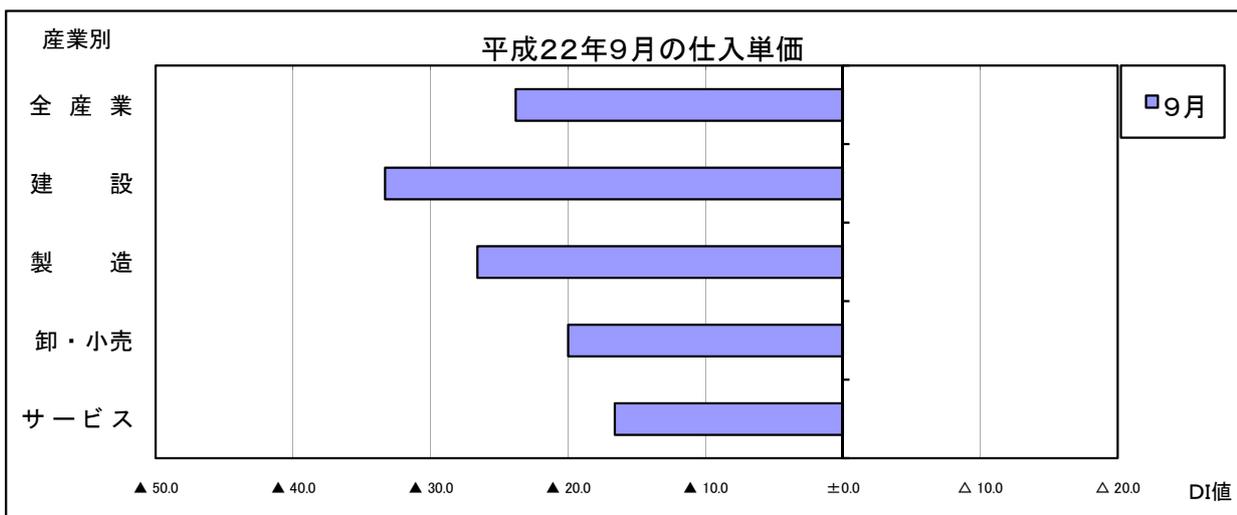
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲20.0(同▲37.9)、サービス業▲16.6(同▲28.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲33.3(同▲14.2)、製造業▲26.6(同▲14.2)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲25.3(前月水準▲21.1)となり、マイナス幅が▲4.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲16.6(同▲28.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲26.6(同▲7.1)、建設業▲20.0(同▲14.2)、卸小売業▲32.0(同▲27.5)である。

平成22年9月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲25.3	▲20.8	▲27.9	▲15.7	▲26.7	▲23.8	▲25.3(▲21.1)
建設	▲21.4	▲33.3	▲23.0	▲7.1	▲14.2	▲33.3	▲20.0(▲14.2)
製造	▲29.4	▲12.5	▲21.4	▲18.7	▲14.2	▲26.6	▲26.6(▲7.1)
卸・小売	▲18.5	▲18.5	▲31.0	▲11.1	▲37.9	▲20.0	▲32.0(▲27.5)
サービス	▲38.4	▲21.4	▲33.3	▲30.7	▲28.5	▲16.6	▲16.6(▲28.5)



【平成22年9月の従業員についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲4.4(前月水準▲7.0)となり、マイナス幅が△2.6ポイント縮小した。

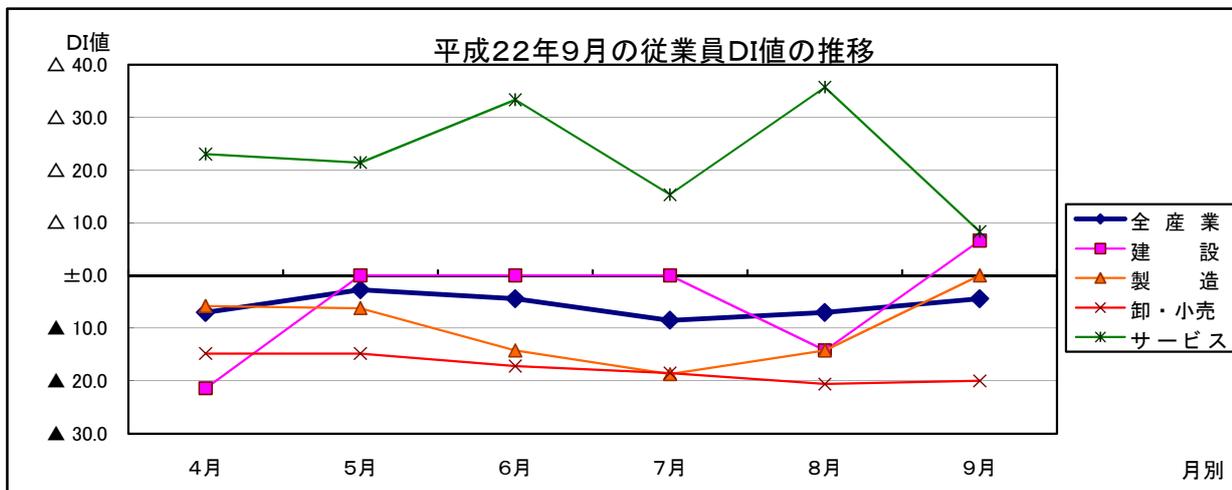
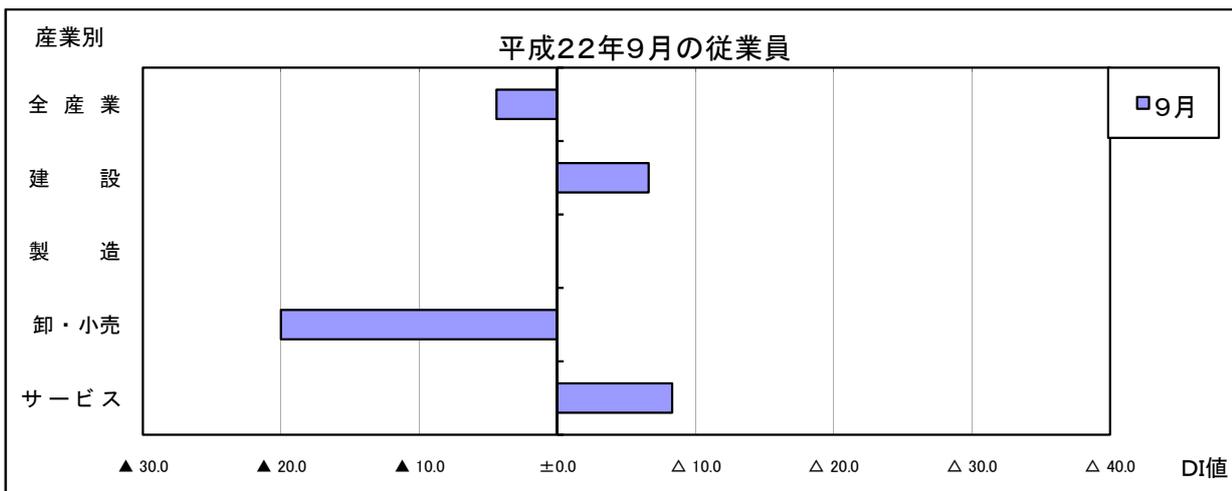
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△6.6(同▲14.2)であり、△20.8ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲14.2)、卸小売業▲20.0(同▲20.6)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△8.3(同△36.7)であり、プラス幅が▲27.4ポイントと大幅に縮小した。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲7.4(前月水準▲9.8)となり、マイナス幅が△2.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同▲14.2)、卸小売業▲12.0(同▲17.2)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△8.3(同△14.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲20.0(同▲14.2)である。

平成22年9月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲7.0	▲2.7	▲4.4	▲8.5	▲7.0	▲4.4	▲7.4(▲9.8)
建設	▲21.4	±0.0	±0.0	±0.0	▲14.2	△6.6	±0.0(▲14.2)
製造	▲5.8	▲6.2	▲14.2	▲18.7	▲14.2	±0.0	▲20.0(▲14.2)
卸・小売	▲14.8	▲14.8	▲17.2	▲18.5	▲20.6	▲20.0	▲12.0(▲17.2)
サービス	△23.0	△21.4	△33.3	△15.3	△35.7	△8.3	△8.3(△14.2)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 38.8	▲ 26.8	▲ 47.7	▲ 37.3	▲ 23.8	▲ 25.3	▲ 4.4	▲ 7.4
建設	▲ 26.6	▲ 40.0	▲ 66.6	▲ 46.6	▲ 33.3	▲ 20.0	△ 6.6	±0.0
製造	△ 13.3	▲ 26.6	△ 6.6	▲ 26.6	▲ 26.6	▲ 26.6	±0.0	▲ 20.0
卸・小売	▲ 76.0	▲ 16.0	▲ 72.0	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 32.0	▲ 20.0	▲ 12.0
サービス	▲ 41.6	▲ 33.3	▲ 41.6	▲ 33.3	▲ 16.6	▲ 16.6	△ 8.3	△ 8.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 44.7	▲ 31.3	▲ 25.3	▲ 22.3
建設	▲ 33.3	▲ 26.6	▲ 26.6	▲ 13.3
製造	▲ 6.6	▲ 26.6	△ 6.6	▲ 20.0
卸・小売	▲ 72.0	▲ 32.0	▲ 40.0	▲ 20.0
サービス	▲ 50.0	▲ 41.6	▲ 33.3	▲ 41.6

【平成22年9月の資金繰りについての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.3(前月水準▲25.3)で、前月と変わらない数値となった。

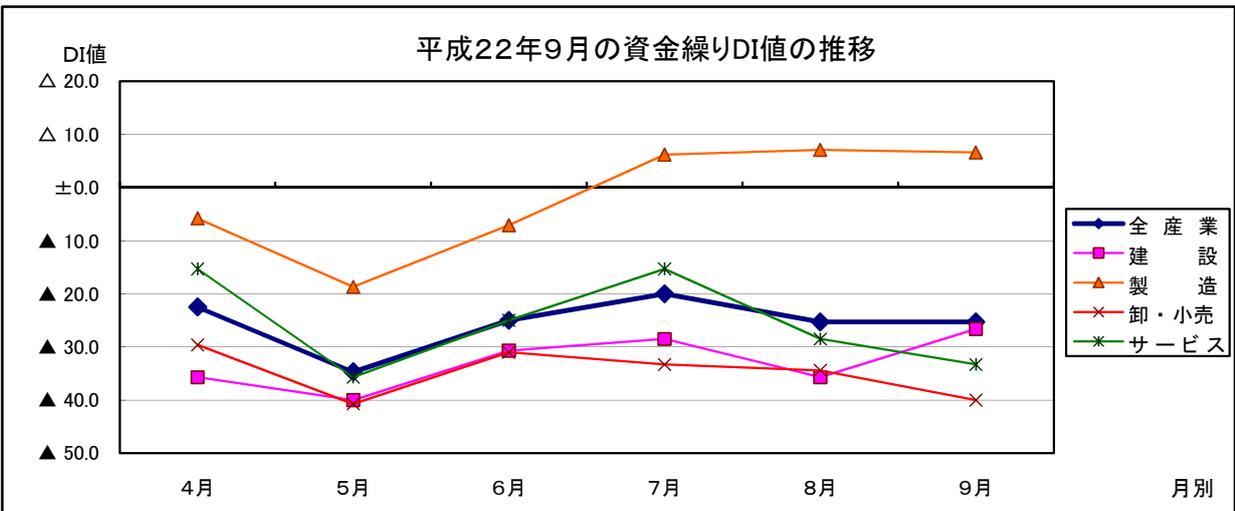
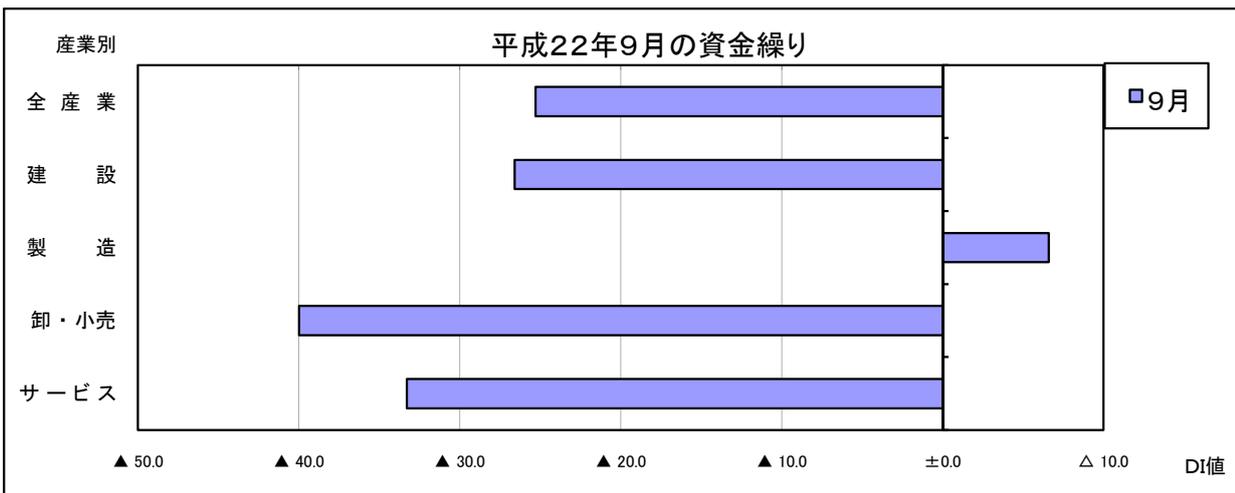
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲26.6(同▲35.7)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業△6.6(同△7.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲40.0(同▲34.4)、サービス業▲33.3(同▲28.5)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.3(前月水準▲16.9)となり、マイナス幅が▲5.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲13.3(同▲21.4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲41.6(同▲14.2)、製造業▲20.0(同▲14.2)、卸小売業▲20.0(同▲17.2)であり、特に、サービス業はマイナス幅が▲27.4ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成22年9月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成22年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月～12月(9月～11月)
全産業	▲22.5	▲34.7	▲25.0	▲20.0	▲25.3	▲25.3	▲22.3(▲16.9)
建設	▲35.7	▲40.0	▲30.7	▲28.5	▲35.7	▲26.6	▲13.3(▲21.4)
製造	▲5.8	▲18.7	▲7.1	△6.2	△7.1	△6.6	▲20.0(▲14.2)
卸・小売	▲29.6	▲40.7	▲31.0	▲33.3	▲34.4	▲40.0	▲20.0(▲17.2)
サービス	▲15.3	▲35.7	▲25.0	▲15.3	▲28.5	▲33.3	▲41.6(▲14.2)



◎猛暑の影響

- ・ 長雨や暑さが戻る予想などもあり、青果物は打撃を受けている状況。入荷減少のため高値で取引が行われています。食料・飲料卸売業
- ・ 猛暑の影響は大きいです。菓子・パン小売業
- ・ 連日の猛暑でガス売上激減。したがってすべてにおいて悪循環に陥っています。燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
- ・ 9月度は秋商戦が厳しい残暑の影響を受けて実需対応商材の動きが弱く、月初より売上高が低調な推移となった。8日には台風の影響を受け売上高はさらに落ち込みをみせた。各種商品小売業

◎消費意欲減退

- ・ 暑さや政治の不安定が影響して消費マインドがマイナスの方向に向かっているといます。食料・飲料卸売業
- ・ 後半から9月頭は大幅に消費意欲の冷え込みを感じる状況。今後も予断を許さないものと考えます。百貨店
- ・ 気温の高い日が続き秋物商品は不振であった。商品が冬ものになりつつあるが、消費者の購買意欲は低く、期待できない。その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)

◎円高の影響

- ・ 円高の影響で長期的にみると景気は悪くなる予想ができるので、新たな集客方法を考え、取りこぼしの無い売り場作りをしなければなりません。各種食料品小売業
- ・ 今後は円高による外国人客の減少の可能性高し。ホテル

平成22年9月のCCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲44.7に対し、「CCI-LOBO」が▲40.8で、柏の方がマイナス幅が3.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲38.8に対し、「CCI-LOBO」が▲34.1で、柏の方がマイナス幅が4.7ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業でいずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業・サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲47.7に対し、「CCI-LOBO」が▲36.4で、柏のほうがマイナス幅が11.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業で10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業・卸小売業・サービス業で、建設業卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲23.8に対し、「CCI-LOBO」が▲17.2で、柏の方がマイナス幅が6.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種はサービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、製造業、卸小売業で、建設業、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲4.4に対し、「CCI-LOBO」が▲11.5で、柏の方がマイナス幅7.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業で、建設業、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲25.3に対し、「CCI-LOBO」が▲26.8で、柏の方がマイナス幅が1.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業、サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。

【平成22年9月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	利益率は良くないです	利益低迷	一般土木建築工事業
	県外などから極端に安い単価で工事を受注するところが出てきている。工事が適正に施工されているのかが心配です	低単価発注	板金・金物工事業
製造	9月に入ってからの動きが止まった。以前は6か月以上の受注見通しが出ていたが、最近では3カ月先も見えない	仕事停滞 先行き不透明	電気工事業
	販売価格が一段と下降気味。建築物件の減少に寄るためと思われる	販売価格下降 建築物件減少	一般産業用機械設備製造業
卸小売	依然として景気が改善してきているという実感が持てない。関係業者からもよい声は聞こえてこない	景気改善実感なし	その他の機械・同部分品製造業
	暑さや政治の不安定が影響して消費マインドがマイナスの方向に向かっていると思います。	猛暑の影響 政治不信 消費意欲減退	食料・飲料卸売業
	8月度は売上入店とも前年を上回る状況。猛暑対策が奏功。しかし、後半から9月頭は大幅に消費意欲の冷え込みを感じる状況。今後も予断を許さないものとする	売上上昇 猛暑対策 消費意欲減退	百貨店
	記録的な暑さのせいで日中に集客するのが大変だった。円高の影響で長期的にみると景気は悪くなる予想ができるので、新たな集客方法を考え、取りこぼしの無い売り場作りをしなければなりません	猛暑の影響 集客困難 円高の影響 新たな集客方法	各種食料品小売業
	長雨や暑さが戻る予想などもあり、青果物は打撃を受けている状況。入荷減少のため高値で取引が行われています。国体でも取扱高を増やす努力をし、また、食欲の秋には消費者の動向を調査しながら集荷販売をしていきたいと思っています	猛暑の影響 青果物入荷減少 高値取引 国体 消費者動向	食料・飲料卸売業
	猛暑の影響は大きいです	猛暑の影響	菓子・パン小売業
	連日の猛暑でガス売上激減。したがってすべてにおいて悪循環に陥っている。	猛暑の影響 売上激減	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	気温の高い日が続き秋物商品は不振であった。商品が冬ものになりつつあるが、消費者の購買意欲は低く、期待できない。	猛暑の影響 秋物商品不振 購買意欲低下	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
サービス	9月度は秋商戦が厳しい残暑の影響をうけて実需対応商材の動きが弱く、月初より売上高が低調な推移となった。8日には台風のえいきょうを受け売上高はさらに落ち込みをみせた。中旬以降気温が一気に下がったこともあり、秋冬商材が動き出したが、低調な推移となっている。月末のキャンペーンで告知を強化し集客及び売上につなげて行く	猛暑の影響 売上低調 秋冬商戦 キャンペーン強化	各種商品小売業
	宿泊は市場全体で一室単価が下がる。稼働は若干上がっているが、原価販売費が増え利益を圧迫。国体に期待。今後は円高による外国人客の減少の可能性高し。	単価下降 販売費増加 利益減少 国体 円高の影響	ホテル
	9月にはいって状況は悪くなっている	業況悪化	そば・うどん店

平成22年9月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 44.7	 33.3	 6.6	 72.0	 50.0
CCI LOBO	 40.8	 54.4	 26.0	 46.1	 42.9

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 38.8	 26.6	 13.3	 76.0	 41.6
CCI LOBO	 34.1	 47.7	 13.3	 42.2	 37.3

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 47.7	 66.6	 6.6	 72.0	 41.6
CCI LOBO	 36.4	 48.9	 24.7	 37.4	 41.5

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 23.8	 33.3	 26.6	 20.0	 16.6
CCI LOBO	 17.2	 21.3	 22.6	 7.3	 18.1

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 4.4	 6.6	 ±0.0	 20.0	 8.3
CCI LOBO	 11.5	 25.2	 9.2	 7.3	 8.4

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 25.3	 26.6	 6.6	 40.0	 33.3
CCI LOBO	 26.8	 41.2	 18.2	 27.5	 26.8

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(9月の調査結果のポイント)

調査期間：平成22年9月22日～27日

調査対象：柏市内107事業所及び組合にヒアリング、回答数67

柏の景気情報・産業別業況DI

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
4月	▲39.4	▲64.2	▲5.8	▲48.1	▲38.4
5月	▲43.0	▲33.3	▲12.5	▲62.9	▲50.0
6月	▲42.6	▲46.1	0.0	▲65.5	▲33.3
7月	▲30.0	▲42.8	18.7	▲51.8	▲30.7
8月	▲38.0	▲50.0	21.4	▲58.6	▲42.8
9月	▲44.7	▲33.3	▲6.6	▲72.0	▲50.0
見通し	▲31.3	▲26.6	▲26.6	▲32.0	▲41.6

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

柏市の業況

業況DIのマイナス幅さらに拡大

9月の全産業合計のDI値前年同月比ベース、以下同じ)は、44.7(前月水準 38.0)となり、マイナス幅が6.7ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナ幅が縮小した業種は、建設業 33.3(同 50.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業 6.6(同 21.4)であり、28.8

0ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業 72.0(同 58.6)、サービス業 50.0(同 42.8)である。

【建設業】からは、「利益率は良くないです」「一般土木建築工事業」が、県外などから極端に安い単価で工事を受注するところが出てきている。工事が適正に施工されているのかが心配です(板金・金物工事業)、「9月に入ってから動きが止まった。以前は6か月以上の受注見通しが出ていたが、最近では3カ月先も見えない(電気工事業)などの声が寄せられた。

【製造業】からは、「販売価格が一段と下降気味。建築物の減少に寄るためと思われる」(一般産業用機械設備製造業)、「依然として景気が改善してきているという実感が持てない。関係業者からもよい声は聞こえてこない」(その他の機械・同部品製造業)という意見が寄せられた。

【卸小売業】からは、「記録的な暑さのせいで日中に集客するのが大変だった」(各種食料品小売業)、「8月度は売上入店とも前年を上回る状況

猛暑対策が奏功(百貨店)といった内容のコメントが上がってきた。

【サービス業】からは、宿泊は市場全体で一室単価が下がる。稼働は若干上がったが、原価販売費が増え利益を圧迫。国体期待(ホテル)、「9月にはいつて状況は悪くなっている」(そば・うどん店)といったコメントが寄せられた。

9月の景気キーワード

猛暑の影響

各業種から、「長雨や暑さが戻る予想などもあり、青果物は打撃を受けている状況。入荷減少のため高値で取引が行われています」(食料・飲料卸売業)、「猛暑の影響は大きいです」(菓子・パン小売業)、「連日の猛暑でガス売上激減。したがってすべてにおいて悪循環に陥っている」(燃料小売業)、「9月度は秋商戦が厳しい残暑の影響をつけて実需対応商材の動きが弱く、月初より売上高が低調な推移となった。8日には台風の影響を受け売上高はさらに落ち込みをみせた」(各種商品小売業)など、さまざまなコメントが寄せられた。

消費意欲減退

各業種から、「暑さや政治の不安定が影響して消費マインドがマイナスの方向に向かっていると思います」(食料・飲料卸売業)、「後半から9月頭は大幅に消費意欲の冷え込みを感じる状況。今後も予断を許さないものと考えられる」(百貨店)、「気温の高い日が続く秋物商品は不振であった。商品が冬ものに変わりつつあるが、消費者の購買意欲は低く期待できない」(その他の各種商品小売業)など、さまざまな声が上がってきた。

円高の影響

各業種から、「円高の影響で長期的にみると景気は悪くなる予想ができるので、新たな集客方法を考え取りこぼしの無い売り場作りをしなければなりません」(各種食料品小売業)、「今後は円高による外国人客の減少の可能性高し」(ホテル)などのコメントがあった。

CCILOBOS比較

全産業合計では、「柏の景気」が44.7に対し、「CCILOBOS」が40.8で、柏の方がマイナ

ス幅が3.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (9月速報)

調査期間：平成22年9月15日～22日

調査対象：全国の408商工会議所が2678業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは3カ月ぶりに悪化、先行き懸念も強まる

9月の全産業合計の業況DIは40.8(前月比3.1ポイント)と、3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。前月比3ポイント以上の悪化は、景気の一番底が懸念された2009年12月以来。業況は6月以降、持ち直しの動きに陰りが出ていたが、9月に入り停滞感が一層強まっている。景気回復の自律性が弱まる中、競争激化に伴って低価格での受注や、消費者の低価格志向を意識した値下げ競争により、収益確保は難しい状況が続いている。

先行きについては、39.0(前月比1.8ポイント)と、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。公共工事の減少、低価格での受注競争の激化、エコカー補助金終了による自動車生産の落ち込みに加え、巴高の悪影響や消費の低迷など先行きへの懸念を訴える声がかかり多い。

【建設業】「公共事業・民間投資とも減少が続いているうえ、借入金の金利負担が増加しており、経営状況は厳しい」(建築事業)、「仕事が

あっても、工期が短く、収益に結びつかない」(塗装事業)、「競争激化によって、受注額の価格破壊が起きている」(電気事業)

【製造業】「大手企業の海外生産移転に伴い受注が減少し、経営状況が非常に厳しい」(通信機械器具製造業)、「生産量は回復基調にあるが、先行き不透明感が根強く、設備投資や雇用の拡大には慎重にならざるを得ない」(自動車・同附属品製造業)、「巴高の影響で親会社から海外進出を考えているため、今後、仕事の依頼がなくなる見通しで、先行きが不安」(建設・鉱山機械製造業)

【卸売業】「猛暑が続いたため、秋・冬物衣料の在庫が積み上がっている」(各種商品卸売業)、「県外資本の大手スーパーの進出により価格競争が激化し、採算が大幅に悪化」(各種商品卸売業)、「株安等の先行き不安に伴って消費者の購買意欲の低迷により、特に高額商品の販売が不調」(衣服・日用品卸売業)

【小売業】「消費者の低価格志向が強くなり、利幅の少ない商品の売上比率が高まっている」(百貨店)、「残暑が厳しい

く、秋物商品の売上が低調」(百貨店)、「消費者の財布のひもが固く、1円でも安い店に流れるため、値下げ競争が激化」(商店街)

【サービス業】「エコカー補助金終了により、自動車関連企業からの受注が減少する見通し」(運送業)、「野菜や魚の仕入価格が高騰し、採算を圧迫。従業員も過剰気味で、年末までの見通しは厳しい」(食堂、レストラン)、「宿泊者数は前年並みだが、宿泊単価が下がっているため、売上は減少」(旅館)

9月のキーワード

巴高の悪影響

製造業を中心に、巴高によって輸出や受注が減少するなど、企業経営に悪影響が及んでいるとの声が多い。

「売上の98%が海外向けであるため、巴高により相当受注が減少する見通し」(草津・自動車・同附属品製造業)、「巴高により、ティーパーの輸出が大幅に減少」(奥州・鉄素形材製造業)、「巴高の影響で、外国人の宿泊者数が減少」(長野・旅館)

限定的な猛暑効果

9月中旬まで続いた猛暑により、飲料品やエアコンな

ど夏物商品の売上が好調だった一方、来客数の減少や秋物衣料の売上不振など悪影響を訴える声も多く寄せられた。

「9月に入っても連日のように真夏日が続いたため、衣料品を中心に秋物商品の売上が伸び悩んでいる」(水戸・百貨店)、「猛暑の影響で、商店街への客足が鈍くなり、主力商品である婦人服や雑貨関連の売上が落ち込んでいる」(横浜・商店街)、「猛暑の影響で、収穫が減少した野菜・果物の価格が軒並み値上がりし、仕入価格が例年の2倍以上になっている商品もある」(倉敷・農畜産・水産物卸売業)

エコカー補助金終了による需要減退

エコカー補助金によりこれまで景気を下支えしてきた自動車の生産や販売数の減少を訴える声が多い。

「自動車メーカーが減産計画を打ち出しており、確実に受注が減少する見通し」(佐野・金属加工機械製造業)、「エコカー補助金が打ち切られたことによる、自動車への購入意欲の低下を懸念」(静岡・金属加工機械製造業)、「エコカー補助金が終了した9月8日以降、新車販売が急激に落ち込んでいる」

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
4月	▲45.7	▲59.6	▲30.6	▲48.5	▲50.9	▲45.5
5月	▲39.7	▲55.3	▲25.4	▲34.6	▲46.0	▲39.5
6月	▲40.5	▲58.1	▲25.1	▲37.0	▲41.8	▲45.1
7月	▲39.7	▲58.0	▲20.6	▲33.3	▲46.9	▲41.6
8月	▲37.7	▲56.1	▲20.0	▲35.4	▲43.9	▲38.8
9月	▲36.4	▲48.9	▲24.7	▲30.1	▲37.4	▲41.5
見通し	▲35.3	▲40.9	▲35.8	▲25.2	▲34.4	▲36.0

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

(帯広・自動車整備業)